

「わくわく DS 研究会」2026 年 2 月 会合録

日時：2026 年 2 月 28 日（土）10:00～12:00

場所／方法：Zoom による遠隔会議

出席者：脇阪、下里、萩原、佐伯、川瀬ももこ（見学者）、鈴木

1. 近況報告・見学者の紹介

•見学者の紹介と自己紹介：情報コースのメンターからの紹介で川瀬氏が見学に参加した。これに伴い参加者から自己紹介が行われ、下里氏（情報コース 4 年生・工場勤務）、佐伯氏（情報教育コース卒業・教育心理進学中）、鈴木氏（情報コース卒業・人間と文化コース進学）からそれぞれの近況が共有された。

2. 発表：MC68000 エミュレーター開発と AI コーディングの実践（発表者：萩原）

•開発報告：AI コード（Cloud Code）を活用し、C 言語と C++ を用いて MC68000 CPU および周辺ハードウェア（MVME68K ボード）のソフトウェアエミュレーターを開発したことが報告された。NetBSD などの汎用 OS を実行する段階に至っている。

•パイプコーディング（外部コーディング）の実践：従来の手動開発から、AI エージェントと人間が協力して開発するプロセスへの移行について説明があった。現在、Max（Cloud Max）を使用し、海外とのプログラム作成に毎日 3 時間程度取り組んでいることが共有された。

•AI 活用のノウハウ：

- 余分な情報がトークンを消費するため、プロンプトには必要最小限の情報を含めることが重要である。
- 開発・デバッグ時には、トレース機能や画面のスクリーンショットを AI に提供することで効率的に問題を解決できる手法が紹介された。
- AI による自動コード生成とレビューは有用だが、完全に依存するには時期尚早であり、人間による最終レビューが依然として必要であると指摘された。

•課題と環境：現在の実行速度は 43～44MHz であり、目標の 100MHz 台へ向けた速度最適化が課題として挙げられた。また、利用中の Cloud Max は月額 100 ドルで 5 時間の利用制限があること、萩原氏の開発環境（13 世代 CPU、128GB メモリ搭載の自作 PC）などが共有された。

3. 情報共有・討議：就職活動・研究活動・その他

•就職活動に関する議論：川瀬氏より就職活動や社会課題解決への関心について共有があり、佐伯氏からは新卒での就職や契約社員から正社員への転職の難しさについて実体験が語られた。下里氏からは GI（東京大学松尾研究室のプログラム）に関する情報提供が行われた。

•研究活動・学会発表：佐伯氏より修士論文の学会発表に関する質問があり、脇阪氏から学部生として新しい論文を提出可能である旨が回答された。川瀬氏は卒業研究の条件やスケジュールを確認し、情報処理学会への参加可能性について言及した。

•その他：データセンター用メモリの価格高騰について議論が交わされた。

4. 今後のアクションプラン

•萩原：今回の開発・運用事例（NetBSD の動作等）をドキュメントやスライドにまとめ、次の発表に向けて整理する。エミュレーターの実行速度最適化を継続する。クラウドコードの具体的な使い方（AI とのやり取り例など）の資料を準備する。今回のミーティングレポートを作成・送付する。

•佐伯：萩原氏の助言を参考に、自身の Web アプリ開発におけるスクリーンショット等の活用方法を初学者向け Tips としてまとめる。放送大学学部生として学会への論文提出を試みる。次回以降、具体的な相談事項を提示する。

- 川瀬： GI プログラムの次回募集状況の確認、情報処理学会学生会員への入会検討、卒業研究申請準備を行う。

5. 次回の例会

- 日時： 2026 年 3 月 28 日（土） 10:30～12:30
- 場所・形式： 愛知学習センターにて対面形式により開催し、会議後にランチ会を予定。（発表者：佐伯氏、川瀬氏、鈴木）